令和３年７月３日

学校法人三幸学園
仙台リゾートアンドスポーツ専門学校
校長　佐藤　亨　殿

学校関係者評価委員会
委員長　笠松　淳史

学校関係者評価委員会実施報告

令和２年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　笠松　淳史　（株式会社ルネサンス　泉中央店支配人）
②　門間　昭　（2003 年卒業生）
③　宮下　有裕　（株式会社共立メンテナンス　寮事業本部　仙台支店長）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
令和３年６月２５日（会場　仙台リゾートアンドスポーツ専門学校　２０１教室）

３　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2020 年度　学校法人　三幸学園　仙台リゾートアンドスポーツ専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　寺澤　正典
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　笠松　淳史

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学校全体の共通目標として「共育と自己成長」を掲げ、部門として、日々生徒指導をする中でも成長を考え行動することと新しい事には積極的にチャレンジしていく環境を設定した
・また教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ。

【教務目標】
ハグクム×ヒロゲル
【具体的な定性・定量行動計画】

<u>・担任×講師連携</u>
→　特別活動、公認欠席をリスト化し、管理徹底を図る
→　学科会を実施することにより、情報の共有を図る。Teams の活用

<u>・退学率 5%未満</u>
→　学科担当制により、担任だけではなく、学科メンバーで生徒に対してのアプローチを実施
→　生徒情報を迅速に共有（オリジナルシートを用いて、資料共有の徹底）

<u>・ICT 教育・Sanko Gate の活用</u>
→　全国でオンデマンド教材を作成し、Sanko Gate を通じて生徒へ展開
→　Google meet を活用し、同時双方向における授業を HR と保育科にて展開

<u>・社会人基礎力の向上</u>
→　外部活動の活発化と、特待生生徒の学内活動の活性化を図る為の会議を実施
→　統一 HR とコロナ感染対策に合わせた清掃の徹底

<u>・ギャップを埋める授業展開</u>
→　初回授業オリエンテーションを実施し、教科のねらいや目的・ゴール、資格との結び付きなどを説明

② 学校関係者評価委員会コメント

・授業の中で、より具体的な目標設定等を行う事で、授業に対するモチベーションも向上するのではないか。
例えば、授業の中で、100 個のトレーニング方法を覚えようなどがあると良い。（門間委員）

・定期的に授業内容の途中経過を教員間で共有することにより一貫性も保つことが出来るのではないか。
（門間委員）
2 年次のコース選択や就職先等の目指す方向性を明確にするために、普段の授業でも伝えていくと共に教員の目指したい方向性と学校の目指す教育にずれがないように、うまく生徒を導く必要がある。
（門間委員）
・目標として設定した以上、効果測定はすべきだが、『自己成長』という括りでは定量成果が見えないと感じる。『自己成長の機会を創出』という目標であれば、「自己成長の場をどれだけ与えられたのか」等、成果が測れるのではないか。（笠松委員）
・『社会人基礎力』という観点で、これから社会人になるにあたり、成長をしていく為にどうしていくのか？を考える必要がある。（笠松委員）
コロナ禍の寮生活でルール付けの意識を持ってもらう機会にはなったと思われる。（笠松委員）
・一人暮らしでは自己判断になりがちなので、集団での寮生活を通しての学びもあったと思う。（宮下委員）

3.評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題
教育理念の浸透は、生徒には入学初期段階でのプログラムで入念に伝わっているが、保護者には入学直前のオリエンテーションの機会に限定されており、文書通達や状況によってはご家庭への連絡等を通じて、学校の運営等についてご理解を頂く必要がある。

② 今後の改善方策
例年通り、保護者向け説明会の参加を促すと同時に、文書におけるご家庭への通知や、在籍生徒を通じて、保護者へ学校の方針等を情報共有頂けるようなスキームを確立していく

③ 特記事項
コロナ禍における ICT 利活用が進む中で、社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想は改めて従来の形に捉われず、業界動向等も注視しながら、熟考していく必要がある。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・フィットネスクラブの子ども向けクラス運営の中でも、保護者へのアプローチ方法はコロナ禍前とさほど変化ない。
子どもが体験してみて入会するかどうかの判断という流れは変わっていない。
ただし、レッスン中にギャラリーの中に立ち入れる人数は、子ども 1 名に対して保護者 1 名までと制限している。
LINE でのコミュニケーションは以前から導入済で、新たなツールの追加は特に予定していない。（笠松委員）

・学生寮運営でも、保護者へのアプローチの変更はないが、寮長と寮生のやり取り(外出届など)は LINE を利用し、非対面の関わりを実施している。(宮下委員)
・保護者からクレームが発生するとしたら、生徒・寮生・会員からの話しが発端だと思われる。また、保護者への働き掛けや取組等は特に何もしていないが、実際に利用している寮生の満足度を上げる為に、定期的にアンケートを実施し、集まった意見を元に改善している。(宮下委員)
・卒業前に退寮する寮生は、元々どうにかして退寮したい(一人暮らししたい)等と思っているので、マイナス面を保護者に伝えるという事は起こりうる。(宮下委員)

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題
事業計画に沿う中でも、情勢の変化に合わせた見直しなどのフレキシブルな対応も常に念頭に置いておかなければならないと感じている。

② 今後の改善方策
法定や規則に基づいた業務の認識について、変化があった際にはタイムリーな教職員への情報共有や、教員が一同に介する場で、情報を発信し、事業計画の浸透を図っていく。

③ 特記事項
情報を IT 機器や様々なオンラインコンテンツを通じて、情報共有の効率化や可視化に努めていきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・コロナ禍における柔軟な対応などが出来た事によって組織の連携強化や見直しなど良い機会になる事業者が多かったのではないか。(門間委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

キャリア教育にあたり、近年の社会情勢の変化により、在籍生徒のキャリアラダーが変わりつつある為、内定を取らせる為のキャリア指導は勿論の事、キャリアラダー等、目先だけでは無い、キャリア指導のコンテンツ開発をしていかなければならない。

② 今後の改善方策

授業カリキュラム等でキャリアラダーなどの思考を持てる計画書を今後作成していきたい。

③ 特記事項

ICT を活用した、就活手法については、1 年を通じて教職員、生徒へ浸透を図る事が出来た。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・2020 年度フィットネス業界は採用が厳しかったが、今後業界の雇用情勢も変化してくる。（笠松委員）
・数年前から、企業に勤めるよりも個人事業主の方が、社会人として生活していけると考える生徒が増えている。（笠松委員）

・個人事業主（トレーナー）の数自体は年々増えている。そもそもフィットネスクラブに通ったことがなく、フィットネスクラブで働くイメージよりもパーソナルトレーナーの方がイメージが付きやすい。
『キャリア教育』という観点で言えば、先々どのようになっていきたいのか？何を目指したいのか？を明確にし大手企業だからこそできること、小規模だからこそできることの違いを伝え、将来の方向性をしっかり示してあげることも必要。（笠松委員）
・自分が何歳まで働くのか。若い時にしかできないから個人事業主を目指すのか、最初は大手企業を目指すのか。将来設定についての話しをしてあげる必要性がある。（笠松委員）
自身の経験としては、「フリーにはいつでもなれるから、まずは企業に就職の方が良い」とアドバイスされた。
「企業⇒個人はキャリア変更できるが、個人⇒企業は難しい」というのが、現場で働く方からの意見。（門間委員）

（4）学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題
退学率について毎年目標としている5%を下回ることが出来ていない。大きな課題として生徒から退学示唆があがって来る時には既に退学を決めている生徒が多い現状。その前段階で気づくことが中々出来ていないため、教員の関わり具合の強化が必要であると考える。卒業生に関しては情報を把握する手段や繋がりが属人的になっているため、学校として卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保できるような仕組みづくりが必要である。

② 今後の改善方策
業界の活性化や卒業生のキャリア支援という視点から、卒後教育や卒業生間の繋がり構築などの取り組みを学校単体ではなく、リゾートアンドスポーツ分野全体として進めていく。同窓会組織や SankoLink（同窓会サイト）の活用を推進する。
退学については、学科担当制を継続し、教員間の連携強化と新たにハイパーQU 学校生活アンケートを取り入れることで生徒の状況把握に努めて、複数の教員でクラスを管理していく。
それぞれの事象に対して対応できる教員の協力を仰ぐなど、講師含め一丸となって向き合える環境の整備に努める。

③ 特記事項
学園全体として卒業生・同窓会組織に関するプロジェクトを進めており、まずは WEB を使った情報発信の仕組みを構築している。在学中から認知できるよう周知している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・リカレント教育は良い機会だと思う。卒業生とずっと繋がっているのは非常勤講師の方が多いと思うので、講師陣にどのくらいの卒業生と関わりがあり、どのくらいの卒業生がリカレント教育を求めているのかを明確にできた方が良いのではないかと考える。（門間委員）

・卒業生と繋がることで、卒業生を講師として採用したり、卒業生の働く企業様からの求人をいただいたり
卒業生の活動支援等、win-win の関係を築くことができる。また、卒業生の姿が学校教育の結果なので活躍を知ることで仙台リゾートアンドスポーツ専門学校の教育の成果が見える機会になる。（門間委員）

・卒業後 5～10 年後に何をしているのか？10 年後にスポーツ業界にいる人がどれだけいるのか？
学校側が積極的に「関わりたい」と思える卒業生がどれだけいるのか。
求人をもらえるとして、採用が多いという事はそれだけ退職が多い、という事にも繋がる。卒業生がどういう現場（企業）で働いているのかの見極めも大事になってくる。（笠松委員）

・自分で努力して『自己成長』『キャリア UP』ができた人や、優良企業で長く働いている人等との繋がりが持てないと将来のキャリアの幅を広げる事が出来ないのではと感じる。（笠松委員）

・経験がある人ほど『自己成長』のスピードは速まっているので、改めての教育の場よりも同窓会等で情報共有の場を設けた方が良い機会になるように感じる。日々、新しい取り組みが進化しているので、リカレント教育をやるとするなら、卒業後 3～5 年程度の現場にも慣れ、かつ改めて知識も身に付けたい世代に絞る事に意味があると思う。（門間委員）

・需要と供給にタイムラグがあるように感じる。仙台リゾートアンドスポーツ専門学校と関わりたい、戻りたいと言っている卒業生は多い。
そういった卒業生は、日々、自身をアップデートしているから、ある程度立場のある人や『自己成長』で既に勉強している人たちが多い。学びを欲しがっている人は多いが求めている情報は最新の物で、学校の教育とはタイムラグがある。仙台リゾート＆スポーツ専門学校と関わりたいと言っている卒業生たちは、自分たちの活躍を後輩に見せたい、という思いがある。（門間委員）

・保育業界と比べて、スポーツ業界は角度が広いのでうまくハマるかどうかは難しい所。上を目指している卒業生は自分で学んでいると改めて感じた。（門間委員）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

就職に関しては、全員が決定した状態で卒業させることができていない。またトレーニング･ジム･スタジオ系の求人が東北地域では少ない。

② 今後の改善方策

学科担当制として、1名の生徒を複数の教員で見ていくことにプラスし、就職については、個人担当も設けることにより、教員の意識向上と生徒の状況把握も密に出来るようにしていく。また、求人については、教員でも新規開拓を進めることで、求人数増加を目指していく。

③ 特記事項

生徒の相談に対する体制としては、適宜希望が出たタイミングでカウンセラーの先生にカウンセリングを実施頂いている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

･学生寮としての学生支援は、経済的な支援（分割払いの金利 0）を実施している。
学校でできる支援としては、社会に出た時にほとんど必ず携わる PC 操作の方法等があっても良いのではないか。専門分野ではあまり手掛けられていない印象である。（宮下委員）

･PC 操作の基本ベースがあると社会に出た際にも自信になるのでは？授業時間外で支援授業を実施するという方法も良い。PC スキルを求める企業も多いのではないか。（宮下委員）

･PC を中学･高校で学んでいると言っても、実務となるとやはり知識･技術は乏しいのが現状。社会人を目指す上で学びの機会があっても良いのではないかと感じる。（笠松委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

生徒数が年々増えており、大人数を収容できる教室が足りなくなってきている。
実習形態の多様化により、実習受け入れに協力してもらう施設をさらに増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

時間割における教室稼働・時間稼働を工夫することで解決する。
実習受け入れ施設の開拓。年間を通して、関連施設の調査および巡回を行い。実習受け入れについて打診をする。インターンシップについても強化をしていく。

③ 特記事項

学園全体として産学連携には力を入れて実施をしている。生徒へ学びの機会を提供できるよう、引き続き注力していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・採用する側にとっても、業界を把握していないために入社の選択肢から外れてしまうくらいなら、『自己成長』のきっかけにもなるので、見学・実習を実施して選択肢を広げたい。実習では現場に立つ以外の作業は出来る業務が限られている。
実際に指導をする事ができず、掃除等の業務になりがちなので、期間・時間はもう少し短くしても良いかもしれない。そこでモチベーションが下がるのであれば、期間・時間を短くして集中して実施できた方が Win-win になる。（笠松委員）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

オンラインや口頭説明を通じて、学校のリアルを感じて貰うためのダイレクトメール作成などを行い、教育成果を可視化していく必要がある。

② 今後の改善方策
オンラインツールの充実と、教職員によるオンラインツールの使用に関する研修を行い、教育効果を画面を通じて伝えていきたい
③ 特記事項
学園で設置されている地域広報室を拠点に、各高校と連携を取りながら、高校生の進路活動サポートを実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・昨年度よりオンラインでの説明会・トークライブなどを実施してみて反響は良かった。他エリアでも実施している様子。オープンキャンパス時の寮説明の希望も増えてきているので、オンライン説明は継続したい。
（宮下委員）
・学校として秋田・岩手からの来校者が減っている。ただし、2021 年度入学者の半分以上は一人暮らしをしている。遠方出身者をいかに呼び込むかが課題である。（宮下委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題
【中長期計画】
なし

【予算・収支計画】
なし

【会計監査】
なし

【財務情報の公開】
なし

② 今後の改善方法
【中期計画】
現在、第2次中期計画（2018年度～2022年度）の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】
　なし

③　特記事項
　なし
④学校関係者評価委員会コメント
　特になし

(9)法令等の遵守　寺澤

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

①　課題
関係法令にて義務化されている自己評価とともに、評価結果の公開についても定例化させる必要がある。

②　今後の改善方策
自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

③　特記事項
産学連携による教育の充実を図っている中で職業実践専門課程への対応を視野に入れて法令を遵守する。

④　学校関係者評価委員会コメント
特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①　課題
行政関係の講座・教育訓練受託に関しては分野的に対象者（希望者）がほとんどないため今後実施をしていかなければならない。また、卒業生や地域に対しての具体的な社会貢献活動が出来ていない。

② 今後の改善方策
学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして、地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。今年度は学内発表会として、生徒が学んだことを地域の方にアウトプットする機会を行事として実施していく。

③ 特記事項
スポーツ業界の人材育成の教育環境を活かして、地域に留まらず東北エリアにおいて人材育成の情報発信施設・人材交流施設を目指して運営を行う。また、卒業生を対象として、リカレント教育にも力を入れていく。
また、教育環境の1つとして、スポーツ分野に関連したボランティア活動を仙台スポーツサポーターズネットワークとも連携し、積極的に推奨しており、業界と連携した場の提供と現場での教育理解を図った上で展開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・地域貢献として、ルネサンス泉中央店では、駅前の活性化の為に清掃活動・ゴミ拾い等、店舗前をキレイにする活動を実施している。例えば雪が降った時、玄関前だけ雪かきをするのではなく、しっかり通路を作るなど、些細な事から始める事が地域貢献に繋がると考える。（笠松委員）
・発表の場として外部企業施設を借用し、企業顧客への指導の場を提供するなどあっても良いのではないか。（笠松委員）

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
今年度、留学生の入学者が1名いるため、今後様々な対応が予想されるので、法人の留学生サポートセンターとも連携を図り、適切な体制を維持していきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・グループの中に日本語学校があるので、東京から仙台の専門学校への進学+入寮の動きが進んでいる。
スポーツ分野では、分野特化のビザや資格がないので留学生の呼び込みも難しいが、上記の取り組みでの支援は可能。（宮下委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍において当初の事業計画から大きく変更、縮小等余儀なくされた所がある中で、年度末において年度初めにおける事業計画へ近しい成果や評価が得られた。また、改めて新しい物事の発想や考え方など、学校運営において従来の手段や方法等を見直すきっかけにもなる１年であった。業界ニーズを捉え、多種多様な入学者を受け入れ、学習者本位の環境設定など、教職員の思考の変革や教育技術の向上などを念頭に学校運営を進めていきたい。